

スーパー・メガリージョンの形成及び効果の広域的拡大の促進に係る調査の概要

国土交通省 関東地方整備局

令和2年11月19日

背景

○第二次国土形成計画(平成27年8月14日閣議決定)において、スーパー・メガリージョンの形成に向けた構想の検討を行うこととされたことを受け、平成29年にスーパー・メガリージョン構想検討会(SMR構想検討会)を設置して検討を開始し、令和元年5月に、同検討会の最終とりまとめが公表された。

○同とりまとめにおいては、スーパー・メガリージョン形成のためには、対流の活発化により三大都市圏(首都圏、中部圏、近畿圏)の一体化による巨大経済圏の創造等が必要とされている。また、スーパー・メガリージョンの形成を契機に、全国各地の個性同士を結びつけていくことによるスーパー・メガリージョンの効果の広域的拡大が必要とされている。加えて、同とりまとめにおいては、スーパー・メガリージョンの形成及びその効果の広域的拡大については、国として積極的な取組を行っていく必要性が指摘されている。

○そのため、令和2年度から、各ブロックにおいて、スーパー・メガリージョンの形成及び効果の広域的拡大について具体化に向けた検討を開始した。

(参考)第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」(令和元年12月20日閣議決定)施策4-1(1)④ iii 都道府県を越えた連携による広域的な地域づくりの推進
スーパー・メガリージョン構想検討会最終とりまとめ「人口減少にうちかつ～スーパー・メガリージョンの形成に向けて～時間と場所からの解放による新たな価値創造～」(2019年5月20日公表)で示されているスーパー・メガリージョンの形成と効果の広域的拡大について、各圏域における取組の具体化を進める。

○成長戦略(令和2年7月17日閣議決定)において、「スーパー・メガリージョンの形成と効果の広域的拡大のため、先進的な取組について、全国8広域地方計画区域毎に、フィージビリティスタディ等を実施し、2022年度を目途にロードマップを策定する」こととされた。

首都圏広域地方計画における記述例

我が国は世界に先駆けてリニア中央新幹線を整備することで、総人口6,000万人規模の三大都市圏が、山手線一周の所要時間に相当する67分ずつながら、世界最大のメガリージョン(スーパー・メガリージョン)を形成できる可能性がある。この可能性が現実のものとなれば、大阪圏、名古屋圏のポテンシャルを活かした今までにない強力な国際競争力を有する首都圏の新しいモデルを構築し得る。そのため、首都圏単独ではなく、三大都市圏でのスーパー・メガリージョン形成の中で、首都圏の強化を図ることを考えるべきである。

国土交通省が推進しているスーパー・メガリージョン（SMR）構想【令和元年5月とりまとめ】

- ◆ リニア中央新幹線が全線開通すると、品川～大阪間が67分（品川～名古屋間は40分）で行き来できるようになり、今まで以上に各都市間の結びつきが強まり、新たなライフスタイル・ビジネススタイルが生まれることも期待されています。
- ◆ リニア中央新幹線による劇的な時間短縮により、中間駅周辺地域では、大都市で働きながら自然豊かな地域で暮らしたり、新たな居住の選択肢を提供する地域に発展していくことが期待されています。
- ◆ 相模原市橋本に設置予定の中間駅「神奈川県駅（仮称）」は、首都圏の成長を牽引する産業交流拠点としての発展が期待されています。

期待される取組例

＜自然豊かな居住環境・多様なツーリズム・社会参画のプラットフォーム等の形成による地域独自の豊かなビジネス・ライフスタイルの実現＞
地域と大都市住民の交流促進／豊かな自然環境や景観等の持続／地域の強みを活かした新しい産業(価値)の創出 等

首都圏広域地方計画【平成28年3月】

「ものづくり」のみならず、「もの」がもたらす様々なサービスを提供する「ことづくり」、さらには、フェアトレード※のように、消費行動に新しいライフスタイルや社会とのつながり・絆といった「ものがたり」という付加価値を生み出す「ものがたりづくり」等、クリエイティブな産業の振興が必須である。

クリエイティブな産業の振興の舞台には、

- ①世界中から**クリエイティブな人材、知識、文化、芸術及び情報等を集め、**
- ②集まった人材や知識等がメルティングポット(るつぼ)のように**多種多様に交流、コラボレートすることによって、新たな価値やアイデアを創造し、**
- ③国際的に情報を発信し、世界規模で伝播する、という3つの機能を果たすことが求められる。

世界規模、地球規模でこれら3つの機能を果たしているのがメガリージョンである。

フェアトレード:国際貿易の中で不利な立場に置かれた途上国の生産者と、先進国の消費者を結びつけることで、より公正な取引を促進し、途上国の生産者が貧困に打ち勝つための能力を身につけ、自らの状況を改善しより自立的な生活を営めるようにすることを目指した公正な貿易のあり方

スーパー・メガリージョンの形成及び効果の広域的拡大の促進(概要図)

<取組のねらい>

恵まれた自然環境と大都市の利便性を享受する豊かで潤いのある生活や多様な働き方の実現等新たなライフスタイルの展開

首都圏内のIT・情報・金融等のクリエイティブ人材やイノベーション人材と圏内外の企業や人材との対流を促すための新たな場、仕組みの形成

多様な地域資源との交流による中間駅周辺地域への成長の機会創出

<調査・検討の視点>

- テレワーク拠点の役割、機能、自立性、課題
- ・都心ワーカー等と地域・人との継続的関わり
- ・テレワーク拠点発のイノベーション、ビジネス展開
- ・フェイストゥフェイスコミュニケーションの新たなとらえ方（見直されるもの）等

藤野エリア：首都圏南西部の豊かな自然環境があるエリア

新たなビジネススタイル・ライフスタイル
に関心ある都心のワーカー・企業

品川→藤野（約50km）が約100分から約60分に

（リニア開通後は約10分）

【提供する環境】

- ・サテライトオフィス、滞在拠点
- ・豊かな自然環境（山、川、動植物）
- ・里山体験やアート体験 等
- ・地域に根ざした活動を行う、人

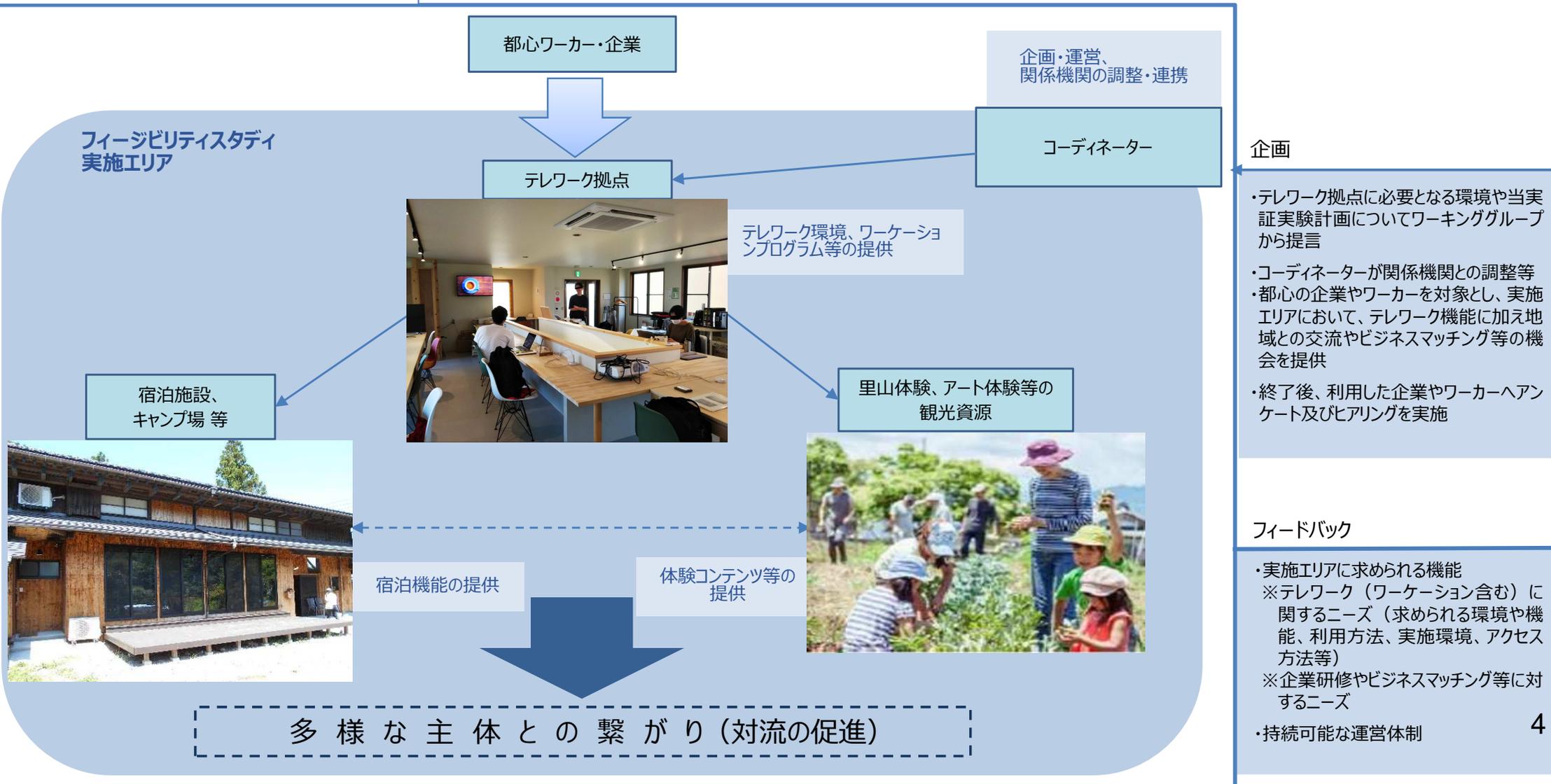
<具体的取組概要>

- ◎ 第一段階 地域と連携した新たなビジネススタイル・ライフスタイルの検討
 - ・リニア中間駅周辺の豊かな地域環境と融合した新たなワークスタイルに関するニーズ調査
 - ・実証実験に向けた企画・調整、実証実験計画の策定
- ◎ 第二段階 実証実験及び効果検証
 - ・都心のワーカー・企業を対象としたテレワークやワーケーションの促進
- ◎ 第三段階 リニア開業を見据えたロードマップの策定

スーパー・メガリージョンの形成及び効果の広域的拡大の促進(関係図)

- 具体的実施内容：テレワーク+自然豊かな地域の様々な資源との接触を契機として、継続的に都心のワーカーや企業と繋がることによる対流促進に必要な環境等を実証実験を行いながら検討

フィージビリティスタディの実施体系図



企画

- ・テレワーク拠点に必要な環境や当実証実験計画についてワーキンググループから提言
- ・コーディネーターが関係機関との調整等
- ・都心の企業やワーカーを対象とし、実施エリアにおいて、テレワーク機能に加え地域との交流やビジネスマッチング等の機会を提供
- ・終了後、利用した企業やワーカーへアンケート及びヒアリングを実施

フィードバック

- ・実施エリアに求められる機能
 - ※テレワーク（ワーケーション含む）に関するニーズ（求められる環境や機能、利用方法、実施環境、アクセス方法等）
 - ※企業研修やビジネスマッチング等に対するニーズ
- ・持続可能な運営体制

調査審議頂きたい主な論点

- スーパー・メガリージョンの形成及び広域的拡大は、中間駅周辺地域のビジネススタイル・ライフスタイルにどのような影響があるか
- 中間駅周辺地域(相模原市緑区藤野地区)に期待される役割は、何か
- 「新たな拠点」で実証実験を行うにあたり、どのような戦略が必要か(どのような層(立地、業種等の属性)に着目すべきか、など)
- 実証実験は、どのように実施するか(具体的内容)

【参考 リニア中央新幹線がもたらすインパクトの例】

フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションが生み出す新たなイノベーション

- ・イノベーション創出による生産性向上が不可欠となっており、フェイス・トゥ・フェイスコミュニケーションを通じた 予定
調和なき対流の重要性が高まる
- ・リニア開通により、交流機会が増加、交流時間が拡大し、新たなイノベーションを生み出す

時間と場所からの解放による新たなビジネススタイル・ライフスタイル

- ・リニア開通による時間と場所からの解放が、暮らしに多様な選択肢をもたらす